

令和7年 神奈川県広報コンクール最優秀作品の概要

1 【広報紙・市部】 小田原市「広報小田原」(12月1日号)

【主たる記事の掲載意図】

戦争の悲惨さを風化させることなく、命の尊さや平和を次世代へ継承する意義について考えることを目的に、タイトルを「未来につなぐ平和のバトン」としました。

具体的には、小田原の地で実際に戦争を体験しており「小田原ふるさと大使」としても活動するアニメーション映画監督・富野由悠季さんと市長による特別対談「平和を願う思い」を通じて、平和な未来への道筋を探っています。

また、「戦後 80 年事業」の一環で行われた「中学生沖縄派遣事業」では、市内在住の中学生 24 人が沖縄を訪問し、戦争の歴史や命の重みを学びました。その中から代表として 5 人の生徒が、派遣を通じて感じた平和への願いや得られた学びを語っています。

【講評】

特別対談は、80 年前に戦争に突入していたムードと現代の風潮から感じられる漠然とした危うさをすくい取っています。若い人たちに「考える大切さ」「想像力を働かせる重要性」を訴えかけている好企画です。中学生という「未来」を象徴させる存在を紙面に掲載することで、老若男女様々な人を巻き込み、世代を超えて次世代へつないでいく大切さを教えてくれています。

また、写真の使い方やレイアウトも読みやすさを十分に意識したものとして評価できます。